

# もみじ

— 広島山岳・スポーツクライミング連盟会報 —



一般社団法人 広島山岳・スポーツクライミング連盟

〒733-0011 広島市西区横川町 2 丁目 4-17

電話・FAX (082) 296-5597

E-Mail: [hgakuren@lime.ocn.ne.jp](mailto:hgakuren@lime.ocn.ne.jp)

URL: <http://hiroshima-gakuren.or.jp>

郵便振替口座 01380-6-37958

題字デザイン 今村みずほ

編集 西部伸也

本号内容

1. 県高校総体報告 (感想文の続き)
2. 山岳救急法研修会 (6/25 東区スポーツセンター) 報告
3. クライミングスクール (7/2 三倉岳 ABC フェイス 周辺) 報告
4. 寄稿『登山道整備』
5. ありんこチーム活動 (7/17~18 御在所岳) 報告
6. 国体ブロック予選 (7/21~23 山口県) 報告
7. 県民ハイキング (6/11 牛田山) 報告 (歴史解説)
8. 岳連短信 (寄贈御礼、8~9月の行事予定)

## 1. 県高校総体報告 (感想文の続き)

(県高体連登山部事務局長 内藤 弘泰)

令和5年度 第76回広島県高等学校総合体育大会登山競技 (6/3~4 七国見山・県民の浜・野呂山) の結果については前号で報告しましたが、女子優勝校のノートルダム清心選手の感想文が届きましたので、紹介します。

はじめに、この大会を開催し、運営して下さった関係者の皆様に感謝します。今回は、コロナウイルスによる制限が緩和され、従来の形での審査が行われました。慣れない炊事やテント泊があり不安でしたが、全員で試行錯誤して準備をしました。本番では天候にも恵まれ、無事に終えることができました。

1日目の七国見山では、西泊観音の辺りで展望が開け、きれいな瀬戸内海の景色を楽しむことができました。下山後、夕方にはきれいな満月を眺めながら炊事や食事をし、メンバー4人の親睦をより深めることができました。

特に印象深かったのは、2日目の野呂山の山頂が近づいた時にたくさんの拍手と声援が聞こえてきたことです。その拍手のおかげで、タイムレースのゴール間近で力を出し切ることができました。山頂に着くと、保護者の方がたくさん応援に来てくださっているということが分かり、驚くと同時に嬉しかったです。大会の形がこのような面でも元に戻ったのだと思うと、感慨深かったです。

この大会を通して、学んだことがたくさんあります。今回の反省を活かしてインターハイで悔いが残らないよう、また全員で準備を重ねていきたいです。

## 2. 山岳救急法研修会報告

(指導部長 森本 覚)

日時: 6月25日(日)

受講者: 連盟会員 31名、一般 4名、合計 35名

講師: 日本赤十字社指導員 山田 純一 様

場所: マエダハウジング東区スポーツセンター会議室

日本赤十字社に講師を依頼して赤十字救急法基礎講習を実施しました。今回は基礎講習に登山に関わる項目をプラスした内容で講習して頂きました。午前中はテキストに沿って机上講習を午後からは実技講習という流れでした。参加されたみなさま、真剣に実習されていました。(森本)

【感想文】

(広島やまびこ会 高橋 俊造)

もし、「やまびこ会」の山歩きで、気を失ったら……。そんな危機意識を持った時、勉強の大切さを感じました。学習内容は、生命の徴候の観察、体位の変換・保温、気道異物の除去、気道の確保、人工呼吸、胸骨圧迫、AED の使用方法、三角巾の使い方など実技研修をしました。山での注意事項を 5 時間に渡って、学ぶことができました。日本赤十字社の山田先生による熱心な指導は、分かりやすくなることばかりでした。ありがとうございました。また、企画していただいたスタッフのみなさま、ありがとうございました。これからも、山に関する講習会や研修会を開いていただければ、進んで参加させて頂きたいと思っています。今回、小型の AED を使いましたが、リュックに詰めていくこともできそうなので、常時携行することを、みんなで考えていく必要があるかなと感じました。

(福山山岳会 渡邊 晃大)

(写真提供 森本)

今回の救急法基礎講習では、一次救命処置と手当の基本について学びました。

登山では危険を伴う事は言うまでもなく、もし怪我等をした場合、救急車や救助ヘリ等をすぐに呼べなかったり、呼んでも時間がかかる状況になる可能性があったりするため、救急法は仲間や自分の命を守るために必須の講習内容だと思います。もし、自分の近くで誰かが救助を必要とするような事があった場合、自ら処置出来るようになければならないと思い受講しました。

講習は、怪我や急病等で救護が必要な人に対し、医師または救急隊などに引き継ぐまでの一次救命処置の方法で、多分だいたいの方は、どこか(学校や職場、TV等のメディアで)で見聞きした内容のある内容だと思います。しかし、もし「目の前に倒れている人がいたら咄嗟に救急行動ができるか」と言われると、なかなかできません。普段の生活の場においても、とても重要な講習内容でした。

先ず、机上講習で赤十字救急法「手当の基本(観察、体位)、心肺蘇生(胸骨圧迫、気道確保、人工呼吸)、AEDを用いた電気ショック、気道異物の除去方法」を学びました。その後、実技講習で適切な体位、保温の仕方や上記救急法を行いました。一部の内容は昔どこかで学んだような断片的な記憶があり、机上講習で頭に入れたつもりでしたが、次は何をするか考えて行動が止まってしまい思うように動けませんでした。また、心肺蘇生法では、救急隊が到着するまでの間、胸部圧迫30回(1分間に100~120回のペースで)、人工呼吸2回を繰り返し行う必要があり、気力、体力ともに必要だと感じました。実際の現場では状況は複雑になり判断が難しく、講習の時よりもうまく行動できないと思います。救急法基礎講習の内容は誰でもできる事ではありますが、それを速やかに正確な方法でやり遂げるには、正しい知識や判断力が必要で、講習を受け繰り返し練習することで、やっとできるようになると思います。これからも、このような機会があれば、定期的に参加して正しい救急法を身に付けられるようにしたいと思います。



### 3. クライミングスクール報告

(指導部長 森本 寛)

第4回 7/2(日)

山域：三倉岳 ABCフェイス周辺

人数：18名(スタッフ含)



ABC フェイスまで上がりましたが濡れていて登れる状態ではないので、午前中は 3 人一組でムンターヒッチを使ったセカンドビレイの練習をしました。午後からは岩も少し乾いて来たので、いいだしかねてをスリングを使ったエイドクライミングを行い、旧 A フェイスノーマル、練習クラック左、松下さん、B フェイスノーマルをトップロープで登りました。

(指導部 塩田 徹)

### 【感想文】

(受講生 浅尾 幸枝)

7/2(日)三倉岳で行われた第 4 回クライミングスクールに参加させていただきました。

前日までよく雨が降り、クライミングができるほど岩が乾くのかと心配でしたが、時間経過とともに乾きました。岩の間から水が流れ、降水量の多さを感じました。

B コース 6 合目の上、旧 A フェイスまで登り、サックを降ろして準備し、まずマルチピッチクライミングのロープワークを練習しました。

登ったらボーラインノットで立ち木に支点をとり、ビレイ解除を伝える。下から登ってくるクライマーが見える部位でビレイできるようにインラインエイトノットを作るロープの長さを決め、環付きカラビナをかけて、ロープをいっぱいまで引き上げてから、ムンターヒッチでクライマーをビレイする。準備ができたから登るように声掛けする。

仲間とのコミュニケーションが安全のために大事だと教わりました。

マルチの経験は少ないので、手技や手順は自信がありません。手技や手順について繰り返し練習し、時間をとらずにロープの取扱いができるようにならなくてはならないと思いました。

その後、5 本のトップロープをかけていただき、4 本に挑戦しました。

旧 A フェイス ノーマル .7 B フェイス 松下さん .8 ノーマル .9 A フェイス 不詳あぶみで登る練習。

三倉のゲレンデは難しく、昔登ったことがあるのに、登れないという事が多いです。

2017 クライミングを始め、2019 から機会が激減しました。6 年の加齢に関連して、膝・足首・手指の故障、体重増加、筋力・バランス感覚低下と、機能維持に困難さを感じる今日この頃です。昨日できたことが再現できないのは努力不足か不応か両方か。

クライミングをいつまでできるのか、還暦前に再度挑戦と思い、スクールに入りました。

スクール前半で悪い癖のついていたビレイについてご指導、修正いただきました。後半のスクールが九月から始まりますが、少しでも自分を改善して臨もうと思います。

クライミングスクールで出会った、受講生達の熱心な姿に刺激をいただいています。また、年の近い女性が意欲的に取り組まれる姿を驚きと賞賛の気持ちで拝見しています。

最後に指導者の方々、お世話になっている岳連スタッフの皆様、そして三倉岳のクライミングルートを作ってくくださった方、皆様に感謝したいと思います。

(受講生 谷本 雅己)

今回(7/2)はスクールの 4 回目、前半の最後だった。振り返ると、初回は緊張していた。初めてのクライミングを前に、どんなことになるのか不安で一杯だった。初めての岩は恐怖だった。これ登るんですか！必死だった。何とかついていき、完登できた。嬉しくて、才能あるかも？と有頂天だった。そして第二回、第三回、一転有頂天からドツボへ。ルートに現れる最初の難所がクリア出来なくて敗退の連続。他のメンバーが次々とクリアしていくのに～。コーチが指摘、岩にしがみついている、だから足場があるのに見つけることが出来ない、とのこと。悔しい～。情けない！帰宅しても頭から離れなかった。

少し考えた。難所を越えていった人と僕との違い、これは何なのか？足掛かりはないと思ったところを上手な人は岩に立てているけど、こっちは出来ない。何故か？クライミングジムに行ってみよう。ジムでは小学校低学年の女の子の方が遥かに上手だった。又々落ち込んだ。あるコーチにシューズがぼろいような気がすると言ったら、即座に否定された。家の近く

の石垣に取り付いてみたりしたけどどうまくいかなかった。そう言えば、小学校時代、最後まで逆上がりができなかったような運動音痴だった。

そして第四回目、今日も駄目だと精神的に最低に落ち込んでしまうというギリギリの状態だった。傾斜の少し緩いスラブをアブミを利用して登る練習で、コーチからこんな小さなくぼみでも体重をシューズの先端部に上手にかけていき、摩擦力を最大にすれば立つことができるよとアドバイスをもらった。そうか！そしてそのスラブを完登できた。やった！そして前回あっさり敗退したルートに挑戦。がんば！の励ましの声をもらい粘ったら難関をクリア出来た。見物してた一般登山者からも歓声が聞こえた。やった！嬉しかった。今日惨めに敗退するかどうかの際どい所で踏み留まった感じだった。

このような悪戦苦闘の日々です。固い身体、筋力不足等もあるけど岩壁での基本動作を知らなさ過ぎることが大問題だと思う。それとともに、精神面の充実が大切。一步ずつ進歩するという決意の下、一喜一憂せず静かな闘志で取り組むこと。初めてのクライミング、有頂天からドツボにはまり、そして踏み止まりという振れ幅の大きなメンタル面（調子乗りの反面すぐに落ち込む傾向ありを自認）を反省しつつ、取り組んでいきますので、コーチの皆様、よろしくご指導お願いします。

(写真提供 塩田)



#### 4. 寄稿

『「登山道整備」と称される人工物の許容について』

(理事・指導部 堀内 輝章)

最近、県内の（或いは県外にも存在する）里山で、赤色の幅広ガムテープを見られた方がおられると思います。

分岐・頂上近辺・登山道の入り口等、既存のテープの上にベタベタと巻き付け、中にはマジックあるいは修正液様のもので書き込み（年月や数字）、中にはその樹木にも書き込みをしているものも見受けられます。

以前、「がんばれ中高年」の赤スプレーでの書き込みが問題になったことがあり、それを思い起こすのは私だけでしょうか。

しかもSNSなどにも散見され、なかには、「標識が充実しており感謝」などの書き込みもあります。

また登山道整備と称して、既存のルート以外の派生ルートをあちこち作って、いろいろな名前（ポイントに）何とか岩、何とかコース、さらには男性シンボルの名前を付けて、「ご利益を」なんてものもあって、非常に違和感を覚えます。

さらにまた、本来クライミングルートとは縁のない西中国山地の山域にも岩場へのボルト打ち、チップング、なども散見されます。

本来、「登山道整備」は流土の防止、階段の手直し、草刈り、倒木の処置、歴史的遺産の保護、案内板の補修、などに留めるべきだと思いますがいかがでしょうか。

新しいルートの開拓に反対するつもりはありませんが、その過程は相応の慎重さが求められるものと思います。

山は、山岳宗教の対象とまでいかななくても、地元の民にとってはそれぞれ畏敬の念とされてきた所が多くあります。それぞれの山には、引き継がれてきた歴史もあります。それは今も昔も変わりなく受け継いでいくべきものと思います。

敢えて、そこかしこの画像はアップしませんが、登山者の目で確認されて、どのような思いを持たれますか。

皆さんはこの里山（或いは中央の山岳にも見受けられる）「登山道整備」と称した構造物、標識（テープ・人工物）などの設置についてどのようにお感じでしょうか。

## 5. ありんこチーム活動報告

（顧問・個人会員 岡谷 良信）

チームありんこの7月計画は当初、忘年会の折には憧れの穂高岳を検討していたものの、我が家の諸事情で実施も難しい状況となり、仲間には残念な思いをさせてしまった。4月以降は私も何とか正常な生活に戻れたものの、腰痛と、4ヶ月の登山中断、体力の低下はなかなか厳しい状況でしたが、素晴らしい仲間の配慮で何とか登れる山、三重県の御在所岳を選択してくれました。御在所岳は私には非常に懐かしい山で、名古屋に出向時代によく訪れ、単独登山登山を始めるきっかけにもなったと思います。

7月17(日) ゆっくり9:00に集合場所(大町駅)で便乗、レンタカーで道の駅西条と三原で2名の方をピックアップしながら、一日目は泊のみなので慌てることなく、休み休みのドライブだ。この歳になると昼間に走るのがどれだけ楽か実感出来る。

今日はバンガローでバーベキュー、またまた美味しい松坂牛?流石、皆さん旅の食には食欲である。スーパーの肉は却下して、地元の肉屋を検索し、三重牛の美味しさのPRを受けて購入。

16時過ぎに、鳥居登山口キャンプ場着、なかなか爽やかなお兄さんに迎えられ気持ちがいい。10畳程度の

クーラー付きの部屋、野外BBQ設備もある。美味しいお肉と快適なバンガローで日が高い時間から語らい、私への気遣いで、無理のない計画に感謝しながら一夜をあかす。

4:00起床。梅雨明けで記録的な猛暑、体温越えは危険な領域だ。午前中には下山したい事から早朝出発とするが、再々訪れていたはずなのに全く記憶が戻ってこない。中道登山道を登り、朝から猛暑に襲われそうな気配だったが、木陰の中なので何とか我慢できそうな状況である。時折早朝の風もあり心地よい。登り1000m弱なので、プチクライミングと景観を楽しみながら登る。以前の藤内沢の水害の後が未だに回復出来ていない場所を通り抜け、予定通り山上公園(スキー場)、ここから照返しの中、御在所岳山頂着。

だが、この景色にも全く記憶が無い…? 40年以上前の事、藤内壁と前尾根の記憶は薄っすらよみがえるも、その他は全くである。9:00一の谷新道を下る、結構な難儀下り坂であると共に段々と猛暑の影響で蒸し暑い。又、下り坂の勾配のキツイさには、痛み上がりの腰痛に若干の違和感が出始めたが、まあ大丈夫だ。

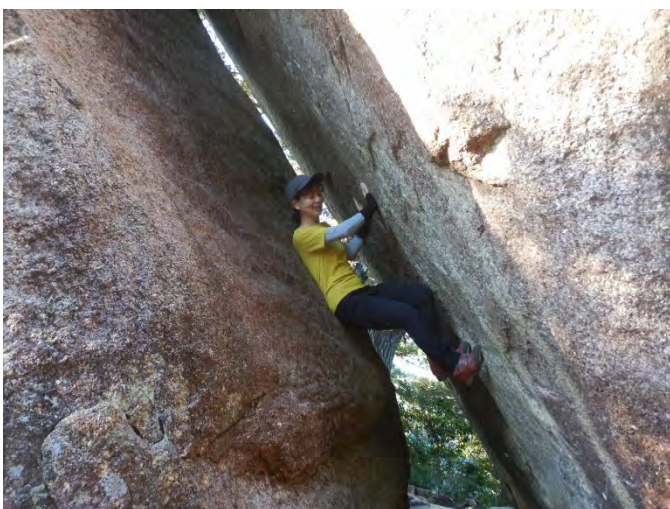
そんな折にヘリコプターのバタバタを云う音が聞こえてくる、事故…?しばらく上空を旋回していたが、遭難者に向けて声がけがなされている。昨日の猛暑の中での行動で、熱中症で動けなくなったのだろうか…?我々もこの36°以上の暑さの中、松茸岩を通過して無事に計画通り12:00には下山、下山口で氷アイスを調達、ガリガリほおぅばって頭の芯までしみわたり頭は痛い、一息付けた。

湯の山温泉入浴と食事を済ませて帰路につくつもりでいたが、バブル時代は繁栄していた温泉街も例に漏れず寂れた状況は時代の流れだろう。湯の山ロッジで汗を流し、菰野の町で地元名産?山かけ井を食して元気を付けて帰路につく。

今回のチームありんこ山行は仲間たちの配慮の企画で思い出と、リハビリ山行に感謝の山旅でした。ありがと〜、仲間達への感謝と、遭難者が無事に見つかる事を祈りつつ帰路につく。

(次頁に写真を掲載)







## 6. 国体ブロック予選報告

(理事・スポーツライティング部 西川 省吾)

7/22, 23 に山口県セミナーパークで中国ブロック大会が行われました。以下に結果を報告します。

成年女子 2 位

少年女子 2 位 (本国体出場権獲得)

少年男子 3 位

成年女子は前日の監督会議で山口県の欠場が発表され、俄かに本国体出場への道が見え始めました。リード、ボルダーともに鳥取県と競り合い、個人順位ポイントでわずかに及ばず 2 位となり僅差で本国体出場を逃す結果となりました。

少年女子は初日のリードでまさかの 4 位発進。中国地方で 2 枠の本国体出場権獲得へ厳しいスタートになりました。しかしボルダーでは見事なチームワークを発揮して 1 位を獲得し、総合 2 位で本国体出場を決めました。

少年男子もやはりリードで出遅れたものの、ボルダーで巻き返し総合 3 位で終了しました。事前練習が雨で中止になり経験不足も否めなかったものの、ボルダーでは楽しそうに登る姿が印象的でした。今後の成長に期待したいと思います。

この結果により、鹿児島国体には少年女子と成年男子 (予選なし) が出場します。引き続き応援を宜しくお願い致します。

### 【選手感想】

(少年女子 西原 ひなた)

1 日目のリードで悔しい結果になった分ペアの相方とお互い励まし合いながら 2 日間頑張ることができました。本国でも頑張りますので応援よろしくお願いします。

(少年女子 佐々木 詩華)

1 日目のリードでは上手いかず悔しい結果になってしまい焦る気持ちもありましたがペアの相方と明日のボルダーは絶対 1 位を取って本国に行くと言って強い気持ちでボルダーをすることができました。私の気持ちが下がってしまった時もペアの相方が声をかけてくれて気持ちを切り替えることができました。たくさん助け合えて良かったです。

本国までの間たくさん練習していい結果を出せるように頑張るので応援よろしくお願いします。



## 7. 県民ハイキング報告 (歴史解説)

『あなたの (もしかしたら) 知らない牛田山』

(理事長 豊田 和司)

6月11日(日)に予定されていた県民ハイキングは、前日天気予報の降水確率50%以上だったため中止となりました。事前の案内では再開の第1回目は、「あなたの知らない牛田山」と題して、次のような前宣伝をしていました。

皆さん、これまで何度か登られたでしょうが、「あなたの (もしかしたら) 知らない牛田山の魅力」を紹介します。牛田山には武田氏の家臣、戸坂道海(へさかどうかい)の城がありました。この城は1540年4月、大内氏に攻められ落城。戸坂道海は自刃します。翌年5月、難攻不落と言われた武田城も大内氏の手先、毛利元就によって落城、この時武田氏のプリンスが城を抜け出して太田川対岸の安国寺(不動院)に逃れます。それを、戸坂道海が手引きをしたという伝説が残っています。前年死んだはずの道海がなぜ手引きできたのか?このプリンスが、後に毛利氏の外交僧として活躍する安国寺恵瓊(あんこくじえい)なのです。

5月7日、雨の中牛田山の下見を実施しました。原民喜の碑、東照宮、仏舍利塔など、見どころも多く、縦走路は緑のトンネルが満喫できます。ご期待下さい。(以上、前宣伝)

当日、県民ハイキングは中止としましたが、有志で登山し、その中で歴史解説をさせていただきましたので、この誌上を借りてその一部を再現させていただきます。

⑥ 被爆樹木：集合場所となったシリーブカ公園は、東照宮の背後に広がるシリーブカシイの林にちなんだ名前です。ここに被爆樹木があります。広島市には全部で160本の被爆樹木があり、その条件は、爆心地から2キロメートル以内にあることです。したがって、ここが爆心地から2キロメートル以内であることを示しています。

(右上：被爆クスノキのそばで「開会式」)



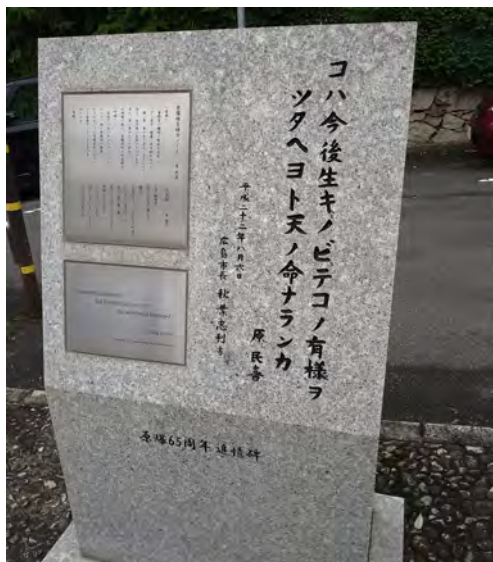
① 原民喜の碑：原民喜の碑は、原爆ドームのすぐ東側にあり、「遠き日の石に刻み 砂に影おち 崩れ墜つ 天地のまなか 一輪の花の幻」という詩が刻まれています。この詩から、彼が亡くなった3月13日は、「花幻忌」と呼ばれ、彼を顕彰する「広島花幻忌の会」が、現在も活発に活動を行っています。ではなぜ、彼の石碑が、ここ東照宮の石段のそばにあるのか?彼は8月6日に幟町の自宅で被爆し、その日は縮景園そばの川岸で一夜を過ごします。翌日はここまで逃げて、あの石垣に板を立てかけて日を避けて過ごしました。被爆してから8月8日の夕方、馬車で廿日市に避難するまでの一部始終を書き留めたメモをもとに、『夏の花』という小説は書かれましたが、そのメモには、この場所で「このことを書き残さなければならぬ」と決意したと書かれています。

この場所で彼が見聞したことを『夏の花』から引用します。

「夜明け前から念仏の声がしきりにしていた。ここでは誰かが、絶えず死んで行くらしかった。朝の日は高くなった頃、女子商業の生徒も二人とも息をひきとった。溝(みぞ)にうつ伏せになっている死骸(しがい)を調べた(お)えた巡査が、モンペ姿の婦人の方へ近づいて来た。これも姿勢を崩して今はこときれているらしかった。巡査がハンドバックを披(ひら)いてみると、通帳や公債が出て来た。旅装のまま、遭難した婦人であることが判



(わかった。昼頃になると、空襲警報が出て、爆音もきこえる。あたりの悲惨醜怪さにも大分馴(な)らされているものの、疲労と空腹はだんだん激しくなって行った。次兄の家の長男と末の息子は、二人とも市内の学校へ行っていたので、まだ、どうなっているかわからないのであった。人はつぎつぎに死んで行き、死骸はそのまま放つてある。救いのない気持ちで人はそわそわ歩いている。それなのに、練兵場の方では、いま自棄(やけ)に嚙(りゅうりょう)として喇叭(らっぱ)が吹奏されていた。」(『夏の花・心願の国』新潮文庫)



② 仏舎利塔；「二葉山平和塔」が正式名称です。説明版にはこうあります。「昭和二十九年四月、日本山妙法寺山主藤井日達聖人により地鎮祭が行われましたが、その後、十二年を経て昭和四十年、地元の開拓団の方々が、各自の土地の一部を売却して建設資金をつくり、日本山妙法寺や有志の協力により完成し、昭和四十一年八月五日落成式と広島市への寄贈式が行われました。塔内にはインドのネール首相より贈られた仏舎利が一粒、セイロン国(現スリランカ国)より贈られた一粒、モンゴル仏教徒より贈られた各一粒も併せて奉安されています。正面の仏像は、昭和四十一年五月、セイロン国より贈られたものです。また県市民による平和の願いをこめた祈念石数万個も収納されています。なお、標高百三十九米のこの地は、半地下式の大型高射砲四門がすえられていたところで

す」原爆投下による被害は、GHQによる検閲制度のため、日本人に知らされませんでした。敗戦から6年後のサンフランシスコ講和条約で、日本の独立がようやく認められ、その翌年のアサヒグラフ8月6日号で、一般の日本人にもこのことが広く知らされました。(スマホで「アサヒグラフ」、「原爆」で検索できます)そしてそれは、全世界の宗教界にもたいへんなショックを与えました。その結果このような塔ができたのです。



③ 尾長天満宮：個人会員の石通(いしどおり)宏行氏から、飛び入りで尾長天満宮の解説がありました。仏舎利塔直下、住宅地に至る斜面に元々天満宮はあり、そこから出る清水が茶の湯に適しているとのことで、縮景園まで笕で水を運んでいたとのこと、後に下記のような、『広島市史社寺誌』からの記述が送られてきました。

「尾長天満宮は本市の東北隅なる尾長山腹にあり、境内は一反七畝四歩(官地一種)祭神は菅原道真の神靈・大穴牟遲神少名毘古那神なり傳へ云ふ菅丞相筑紫に謫遷の途次纜を此地に繋ぎ山上に登り玉ふ。後ち此山を菅大臣山称し村民祠堂を建て祭りしが久ふして荒廢す。寛永年中京都の人松尾甚忠正なる者あり、連歌を善くせるを以て廣島に來り、藩主長晟より眷遇を得たり。その京に在る時、北野天満宮を崇敬し、日に歩を運びて参詣し、一日も怠ること無し。此國に下りても、亦日に遥拝を怠らず。或時連夜靈夢に感じ尾長山上に登り終日夢中の慶廟を探りて終に得ず。將さに帰らんとす、老翁現れ來りければ忠正は喜び告ぐる

に實を以てし、且つ菅神廟の有無を問ふ老翁答へて曰、『此山を菅大臣山と称す。山上に小祠あり此里の産土神にして、年毎に祭禮を缺かさず當社の神職は船越村に住せり、詳かなることは往きて問ふべし。菅大臣山は峯高ふして道遠く且つ峻阻なれば詣づる人も稀なり、願くは汝願主となり里近き處に社殿を遷し祭らば神慮にも叶ひ國家の鎮護とも爲るべし』と云ひりて、老翁去り行く處を知らず。忠正\*奇異に直ちに船越村に抵り、かの神職の家を訪ひて宿志を告げ、忽ち大願主となり、神職・村民相謀り、藩主長晟に請ひて山麓に新殿を建て寛永十七年七月二十五日落成し、山上より此處に遷座し奉る。今の本社のある稲荷社のところなり。其後ち享保年中今のところに殿を再遷す。延享二年六月藩主宗恒亦數微行せらる、毎歳十月廿五日を例祭日となす藩制時代春季の時は農家播種の季節に際し、盛大なる祭典を舉行し、神符に神砂を添へて、沼田安藝へ六十七枚佐伯・山縣へ百五十八枚高田・高宮へ九十五枚賀茂八十九枚豊田へ八十九枚御調奴へ百二枚世羅三谿へ八十九枚奴可三上へ五十九枚、三次惠蘇へ九十八枚廣島新開方へ十枚づ配賦す恒例爲せしが明治維新の後ち其例を廢止せり明治五年村社に列し、同四十年二月一日神饌幣帛料供進社指定せらる明治四十二年二月本市片河稻生神社(祭神宇氣母智神)を當社に合併す。

現今の地を意泉谷稱す往古菅丞相山上に飲水を需め此谷に降られけるに清水あ侍者掬して之を奉る相これを飲んで渴を凌ぎ泉水意にて湧出す是れ乃ち随意泉なうと宣ふ困りて終に地名さなれうさ云ひ傳へり谷に清水の神社あり後ち随意泉を改めて瑞泉さ稱す今も其水を引きて『天神清水』と呼べり嘗て本市に辻村孝包さ云へる酒造家あり、或年釀酒悉く腐敗す孝包驚悲して當社に請し、一夜靈夢に神託を得此清水を用ひて釀造せしに味もに芳醇なく、一種の酒造法を案出せしかば酒を天神清水」と名づけ當に水田三反歩餘を奉納して永代供米に充て、土二棟を新築寄附し、天神」稱す積

明十四文化年中辻村某「天神清水」の奇瑞を記し酒一壺を添へて勘解由長官菅原長朝臣に贈る、長親朝臣は酬ゆるに和歌を以てす歌に日、めぐみる神の清水に浸からぬ 人のなさを添てこそ汲め後更に酒の銘をひしに、「麓の清水」と名づけ、尾長山麓の清水これもまた汲みてや神のめぐみ知るらん」

石通さん、ありがとうございます。



- ④ 山階鳥類研究所の観測所跡：尾長山山頂から牛田山に至る尾根にあり、本来使用が禁止されているカスミ網を特別に使用して研究を行っていた観測所(?)があったという話があり、事前に日本野鳥の会広島支部に問い合わせても判りませんでした。しかし、今回参加された広島修道大学山岳会の高田晃範氏によって、其の場所を特定することができました。尾長山山頂を下つてすぐの平らな場所です。そして、その目的も「渡り鳥の調査」と判明しました。高田さん、ありがとうございます。



観測所跡の場所を説明する高田さん



⑤ 大内越え峠：尾長山から牛田山に至る稜線上にその場所があります。戦国時代、この地域は山口の大内氏と島根の尼子氏の代理戦争のエリアでした。大内の軍勢がこの峠を通り、今の府中町に拠っていた尼子側の白井氏を攻めたので、この名があるということです。しかし、この時代、大内の軍勢が通過した峠は無数にあるはずで、なぜここだけ、名前が残ったのか？当日の調査(?)でも、その謎は解けませんでした。後に石通宏行氏から、この場所に大内氏の陣地があった、との情報を得ました。陣地があったのなら、地名に残っても不思議はありません。石通さん、ありがとうございました。



大内峠口からの峠が大内越え峠

#### ⑥ 牛田山山頂 西山貝塚

牛田山には貝塚が4か所確認されています。牛田山山頂直下の西山貝塚はそのうちの一つです。昭和40年の調査で、弥生時代後期のものであることが判っています。この貝塚の上方からは、竪穴住居跡が見つかり、高地性集落が存在していたことを示しています。高地性集落とは、弥生時代中期から後期、西日本に多い集落の一つで、海や平野を眺望できる山頂や丘陵の尾根上につくられ、弥生時代の緊張した社会状況のなかから出現した、戦闘に備えた防砦・烽火の機能を持った遺跡と考えられています。ここで発見されたものに、「巴形青銅器」がふくまれており、県内ではここだけから出土しています。またこの一帯の集落が中国史

書に伝えられる「倭国大乱(2世紀後半頃)」に関わる軍事的施設であったことが有力で、当時かなりの力を持った豪族がいたことが伺えます。巴形青銅器は、弥生時代後期から古墳時代中期にかけてみられ、有力者の墓から副葬品として見つかっています。この青銅器は権威の象徴のほか、邪悪なものを払うものとの説があり、古墳時代のものについては、木盾につけた装飾品との見方が有力です。この巴形青銅器の鋳型が吉野ケ里遺跡で発見されており、弥生時代の後期(2世紀頃)に九州北部で造られました。おそらく、海路で運ばれたものと思われます。



#### ⑦ 牛田山山頂 戸坂(へさか)城跡

なぜ、この場所が古代から軍事施設であったのか？この場所に立つと、西は宮島と本土の海峡から、東は仁保あたりの海域まで眺めることができます。古代から近代まで、海上交通は今よりはるかに重要でした。敵も富も、海からやってくる。少しでも早く相手を見つけることが、勝敗を決する鍵となります。古代から近代まで、この場所はいわばレーダーの役割を果たし、視力の優れた者が周囲の海域を絶えず見張っていたのではないのでしょうか。戦国時代この城主は、武田氏(銀山城)の家臣で、戸坂道海でした。三峰会の小方重明会長の資料によると、

- ・1527年5月；松笠山の戦いにおいて戸坂入道道海が活躍
- ・1530年頃；戸坂氏が大内方の大須三郎を矢賀新開で滅ぼす
- ・1539年9月；戸坂において合戦がある(武田と

家臣戸坂氏+尼子 vs 毛利+大内)

- ・ 1540 年 4 月；戸坂要害城 大内義隆の軍勢に攻められ落城、戸坂入道道海自刃
- ・ 1541 年 5 月；武田氏の銀山城毛利元就に攻められ落城、戸坂氏は毛利氏の所領になるはずだった温品村の所領を賜る

とあります。道海が自刃したのは、大内氏と通じているのが露見し、武田氏に攻められた結果、という説もあります。難攻不落と言われた銀山城は、毛利氏の奇策により落城しました。太田川の上流から千枚の板に草鞋を着け、それに火をつけて流しました。武田山山頂の銀山城からは、あたかも大群が攻めて来るように見えたはずです。そこに注意が向けられているスキをついて背後から攻め入って攻略に成功しました。草鞋を流した場所には、今でも「戸坂千足」という地名が残っています。その落城する城から逃れて太田川対岸の安国寺（今の不動院）に逃れた少年が、後に毛利の外交僧として活躍する安国寺恵瓊なのです。その前年に死んでいるはずの道海が、その少年の手引きをして逃れさせた、という伝説が残っているのです。



### ⑧ 牛田山山頂 戸坂道海の墓

牛田山の山頂直下にあります。二か所に石組みが並べてあるだけの質素なもので、まるで元のお墓が破壊されて、何かの理由でそのまま放置されているという印象を受けます。戸坂氏が温品の所領を賜ったのは、武田氏攻略に関し、何らかの功績を認められたと考えるのが自然ではないでしょうか？



### ⑨ 不動院（安国寺）

武田氏のプリンスはここに逃れて仏道修行をしておりました。当時毛利の外交僧として活躍していた恵心に見いだされて京都に行き、後には恵心の後を継いで自身も毛利の外交僧として活躍することになります。ある時毛利氏が豊臣秀吉に会見すると、安国寺恵瓊は豊臣側に座っていました。彼は豊臣秀吉に認められて、四国の6万石の大名にまでなります。朝鮮出兵にも参加し、その時の戦利品である梵鐘がここに収められています。彼がこの寺に梵鐘を奉納した時、遠巻きにしてその姿を見つめていた人々がありました。滅亡した武田氏の遺臣であったり、戸坂一族の者だったりしたはずはです。私は、先の伝説は、安国寺恵瓊の絶頂期に、戸坂一族によって創作されたのではないかと考えます。戸坂氏は毛利の水軍として活躍し、毛利氏と命運を共にし、毛利氏の山口移封にも同行します。この伝説が今に伝わるのは、戸坂氏が生き延びたからではないか、というのが私の仮説です。







不動院にある恵瓊の墓

山岳・スポーツクライミングセミナー 2023  
 (一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟 主催

# 廃村サバイバル

はつとりんしょう  
**服部文祥 講演会**

服部 文祥 (はつとりんしょう 旧姓: 村田文祥)  
 登山家、作家、1969 年横浜生まれ。1994 年東京総合大学フランス文学科とワンダーフォーゲル部卒。大学時代からオールラウンドに登山をはじめ、1996 年カラコルム-K2(8611m)登頂。他に北アルプスの穂高北麓や黒部御前山などに登頂。近海津波など事故もある。1999 年から読物と食料を背負って山に持ち込まず、食料と燃料を現地調達するサバイバル登山に出る。そのスタイルで日本各地の山岳を登る。自身の経験を踏ってサバイバル登山を本業に定めた。近頃は農村に残された古道具で自給自足を目指した活動をしている。1996 年から山岳雑誌「山人」編集部に参加。  
 『サバイバル登山家』みすず書房、2006 年 6 月)  
 『シンドラ』サバイバルの会みすず書房、2015 年 8 月 第五回神保町火山と読物文学賞)  
 『息子の行状』みすず書房、2017 年 6 月 三島山民文賞(読物 読物文賞)  
 『サバイバル登山家』中央公論新社、2020 年 9 月)  
 『お金に頼らず生きていける』(河出書房新社、2022 年 10 月) 各社書籍多数

9.9 17:30 開場 18:00~19:30  
 (土) 広島市西区民文化センター  
 (広島市西区横川町 6 番 1 号)

第 2 部 お楽しみ抽選会 登山用品や山のカレンダー(等多数)

会 費 ¥2,000 (高校生 ¥500 中学生以下無料)  
 広島県山岳・スポーツクライミング連盟会員、個人会員は半額

特別協賛 広島登山研究所 (株) 九びまちゲート広島  
 協 賛 (株) アシース、A.P.O.R.I.T 三次

お問合せ (一社) 広島県山岳・スポーツクライミング連盟  
 TEL 082-296-5597 (月水金 12-17 時)



牛田山山頂にて

## 8. 岳連短信

### 1. 寄贈御礼

7/21 三原山の会『筆影』No. 521 (8月号)

7/25 福山山岳会『会報』8月号

(7/31) 広島山稜会『峠通信』769

8/2 『中信高校山岳部かわらばん』726

### 2. 8~9月の行事予定

8/18 全員協議会 (西区民文化センター)

8/19 HIROSHIMAベルコンプ2023第2戦 (CERO)

8/27 県民ハイキング (蓮華寺山)

9/9 山岳SCセミナー (西区民文化センター)

(右にチラシを掲載)

9/9~10 中国大会県予選 (宮島)

9/26~10/1 第4回連盟写真展 (NHKギャラリー)

## 編集部より

○この会報は、皆さんの提出原稿を編集して発行しています。岳連行事・山の情報・行事参加の感想など気軽にお寄せください。寄稿の場合は所属、役職を記入下さい。編集の都合で一部手直しすることがあります。ご了承ください。

○会員団体会報発行されたら岳連事務局まで恵送下さい。随時紹介します。

○この会報はメール配信しています。配信ご希望の方は岳連事務局までメールアドレスをお知らせ下さい。